

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°36 マチュ・デュマルシエ

生産地方：コート・デュ・ローヌ

新着ワイン情報

VdF レオン・エ・セラファン 2013 (赤)

2013年は、ワインのスタイル的には、2012年のような果実味がフレッシュなタイプに仕上がっている！レオン・エ・セラファンは基本的にグルナッシュ主体（40～70%）のアッサンブラージュワインだが、2013年は主体となるグルナッシュが不作だったため、相対的にシラーが多くアッサンブラージュされている。果実味をうまく引き出すために、グルナッシュは全房のまま100%マセラシオン・カルボニックで仕込み、シラーとカリニャンは梗の青臭さを取り除くために除梗をして、そのままピジャージュもルモンタージュも何もせず、ほぼマセラシオン・カルボニックの状態です。味わい的には、シラー主体ということもあり、メリハリのあるきれいな酸が柱にあり、2013年という涼しい年の特徴がうまく反映された、エレガントなワインに仕上がっている！

ミレジム情報 当主マチュ・デュマルシエのコメント

2013年は、2012年よりもさらに厳しい年だった…。平均収量は25 hL/haと前年よりも3 hL/ha多いが、例年に比べると3割ほど収量が落ちている。特に、グルナッシュが顕著で、平均収量が15 hL/haと例年の半分…ヴィエーユ・ヴィーニュに至ってはたったの3 hL/haしかとれなかった。

春のスタートはまるで初夏のような良い天気にも恵まれ、ブドウの成長も良いスタートを切ったのだが、中旬から気温が一気に落ち、雨がちで不安定な天候が7月中旬まで続いた。寒さが大きく影響したのか、たくさん付いていたグルナッシュの花蕾がみるみる蔓に変わっていき、開花前にすでに多くの花が流れてしまった。その後もミルデューなどの病気が猛威を振るい始めたが、芽掻きと葉の管理を丁寧に行ってブドウ間の風通しを良くしたり、タイミングよくボルドー液を散布することで未然に対処することができた！また、8月7日に大規模な雹が降り、私のグルナッシュの畑から3 kmも離れていない近隣の畑は壊滅的な被害にあったが、私のところは間一髪で免れることができた。収穫は、開花の時期が長くブドウの成熟がまばらだったので、2回に分けて行った。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

収量が多くても20 hL/haを超えないヴィエーユ・ヴィーニュのグルナッシュ。去年はたった3 hL/haしかとれず、しかも毎年少しずつだがエスカの被害に悩まされていたため、今年の初め、樹齢70年を迎えた一番古い区画の木をやむを得ず全て引き抜く決断をした。これを機に上のクラスのワインは、ヴィエーユ・ヴィーニュ、レゼルヴと2種類あったものをシンプルにVin Rougeという1つのキュヴェに統一した。

マチュはいつも、物静かで、口数が多いほうではない。色々質問をしても、「やっていることはいつも同じ」、「私ではなくワインが語る」という答えが決まって返ってくるが、先日、ヴィエーユ・ヴィーニュを抜いたという話を聞いてから、個人ストックのヴィエーユ・ヴィーニュ2007年を久々に開けて飲んでみたのだが、なるほど、ワインが語るというシンプルな回答がそのままスッと受け入れられた気がした。当たり年ということもあって、7年経った今もまだまだ状態が若く勢いがあり、これからあと20年は優に持ちそうな凄みとポテンシャルを感じる！その一方で、繊細なタンニンとフィネス、長い余韻があり、飲みながらこれ以上余計なことを語る必要はないと素直に思った！ やっぱ彼のワインはすごい！

(2014.6.24.のドメーヌ突撃訪問&11.10.の突撃生電話より)